

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	18 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	御井(みい)神社境内のツルマンリョウ群落				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1953年(昭和28)3月23日				
所在地	宇陀市榛原檜牧(ひのまき)964番地				
所有者 管理者	御井神社				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り				
公開	植物の周りは柵で囲ってあるので、外からの見学は自由				
保存状態	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (地元の保存会の方々が常日頃手入れを行い、道もつけてくれている)				
当面の課題	地域住民の方々がツルマンリョウ保存会を作り、獣害から荒らされないように群落の回りを柵で囲って保護している。ここ10年は実をみたことはない。				
今後の課題	代表者は植物の専門家を呼んで調査を希望している。県も地元の話聞いてサポートをしていただきたい。				
その他 (由緒など)	ツルマンリョウは台湾・中国のほか我が国では、鹿児島県屋久島・山口県・出雲神社境内と本県に分布する希産種である。本県では吉野町・妹山樹叢・山口高鉾神社境内・東吉野村・八幡神社境内・丹生川上神社中社・榛原町・初生寺境内・御井神社境内に分布する。御井神社の自生地はツルマンリョウの北限地である。(御井神社ツルマンリョウ資料より引用)				
コメント	ツルマンリョウはヤブコウジ科の常緑の匍匐性低木で雄雌異株であり、花の開花は7月中旬で果実は球形で翌年9月ごろに紅熟する。(御井神社ツルマンリョウ資料より引用)調査時は果実は全く見られなかった。伸びた茎は30-40cmぐらいで、茎が地面を這うとそこから根が出て増えていくようである。代表者によれば自生地は100平方メートルに渡り鹿よけ柵を作り、見学用の山道も手作りで行った。地元の方々の熱意が伝わった調査であった。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	9 月	18 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	御井(みい)神社境内のツルマンリョウ群落
------	----------------------

ツルマンリョウ自生地を保存活動されている代表者	ツルマンリョウ説明板
-------------------------	------------



ツルマンリョウ自生地

鹿よけのワイヤー入りの柵(高さ2m弱)



ツルマンリョウの花と実(ツルマンリョウ資料より)

新しい根が見られる

